

安足地域麦類技術情報 No. 5

令和5(2023)年3月23日
安足農業振興事務所

- 早めに赤かび病防除の準備を行いましょ
- 排水対策を行いましょ

1 気象経過と生育概況

11月から2月末までは、平年に比べて気温は高く、降水量は少なく推移しました。

11月中旬頃に播種したほ場では、茎数は平年並みであり、茎立期は3月8日頃と昨年と比べて3日早く、平年と比べて1日遅くなりました。

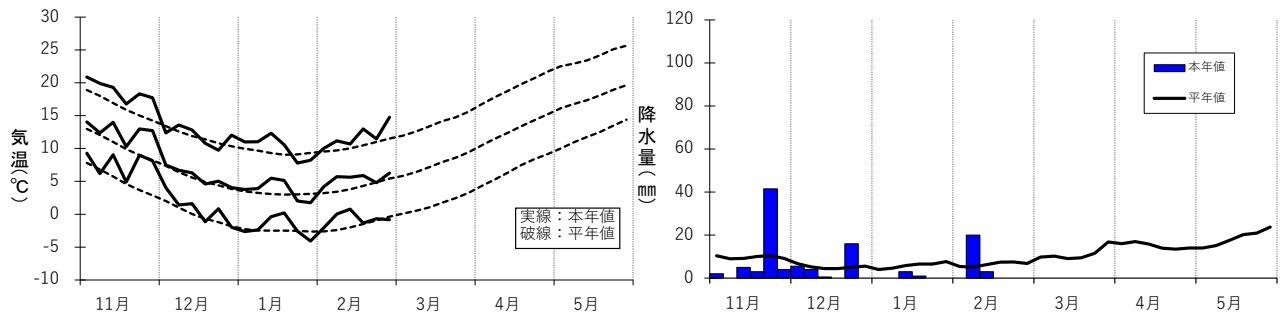


図1 気温と降水量の推移（佐野）

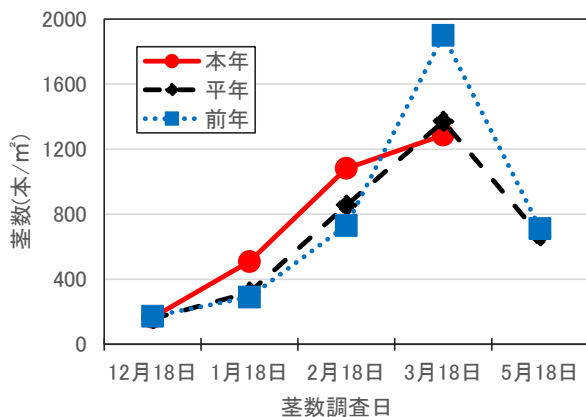


図2 茎数の推移
(足利市：ニューサチホ
ゴールデン)



写真 麦の生育の様子(3月16日撮影)
播種日：11月18日
品 種：ニューサチホゴールデン

2 今後の気象と注意点

気象庁の1か月予報(3月23日発表)によると、向こう1か月の気温は高い確率80%、降水量は平年並または多い確率ともに40%という予報が出されています。

気温が高い予報が出されており、平年に比べて出穂期が早まる可能性があります。

表1 関東甲信地方の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(3月23日気象庁発表)

気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)			
気温	関東甲信地方	向こう1か月 03/25~04/24	10 10 80
		1週目 03/25~03/31	10 10 80
		2週目 04/01~04/07	10 10 80
		3~4週目 04/08~04/21	20 30 50
降水量	関東甲信地方	向こう1か月 03/25~04/24	20 40 40
日照時間	関東甲信地方	向こう1か月 03/25~04/24	40 40 20

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

3 今後の栽培管理

(1) 早めに赤かび病防除を準備しましょう

気温が高い予報が出されており、平年に比べて出穂期が早まる可能性があります。防除に必要な薬剤の準備を早めに行い、適期に防除できるようにしましょう。

1回目の散布後、多発する条件が続く場合は追加防除を行いましょ。

表2 麦種ごとの赤かび病防除適期

麦種	防除適期	多発の恐れがある場合 (不稔粒発生や 登熟期連続降雨など)
二条大麦 (ビール、食用)	穂揃期7~10日後	1回目散布の7~10日後に 2回目の散布
小麦	1回目: 開花始 2回目: 1回目散布 の20日後	3回目の散布

※穂揃期および開花始は出穂期5日後頃が目安

【多発する条件】

①開花期から乳熟期にかけて雨が多く、気温が比較的高い(20

～27℃) 状態で経過する時

- ②不稔粒の発生が多い時（出穂期前後に 25℃以上の高温に遭遇すると不稔粒の発生リスクが高まる）

表3 赤かび病防除の薬剤例

薬剤名	作物名	使用時期	使用回数
シルバキュアフロアブル	小麦	収穫7日前まで	2回以内
	大麦	収穫14日前まで	2回以内
トップジンM水和剤	小麦	収穫14日前まで	3回以内 (出穂期以降は2回以内)
	麦類 (小麦を除く)	収穫30日前まで	3回以内 (出穂期以降は1回以内)
ストロビーフロアブル	小麦	収穫14日前まで	3回以内
	麦類 (小麦を除く)	収穫14日前まで	3回以内

注) 令和5(2023)年3月20日時点で登録のある薬剤

(2) 排水対策を行いましょ

麦は全栽培期間を通じて湿害を受けやすく、湿害を受けると減収に繋がります。

表4 湿害が麦の生育に及ぼす影響

生育期の湿害	⇒ 莖数不足、一穂粒数不足	} ⇒ 減収
登熟期の湿害	⇒ 粒の充実不足	

降水量は多い予報が出されています。最近では気候変動の影響で雨が一回に激しく降る傾向が強く、降雨日の一日降水量が多くなっており、毎年少なからず湿害を受けています。ほ場の明きよを確認し、不備があれば速やかに補修しましょう。

【排水対策チェックのポイント】

- 麦踏み等で明きよが埋もれていないか
- 排水口がほ場外の排水路としっかり連結しているか

問い合わせ先

安足農業振興事務所 経営普及部 農畜産課

TEL: 0283-23-1431

URL: <https://www.pref.tochigi.lg.jp/g58/index.html>

